

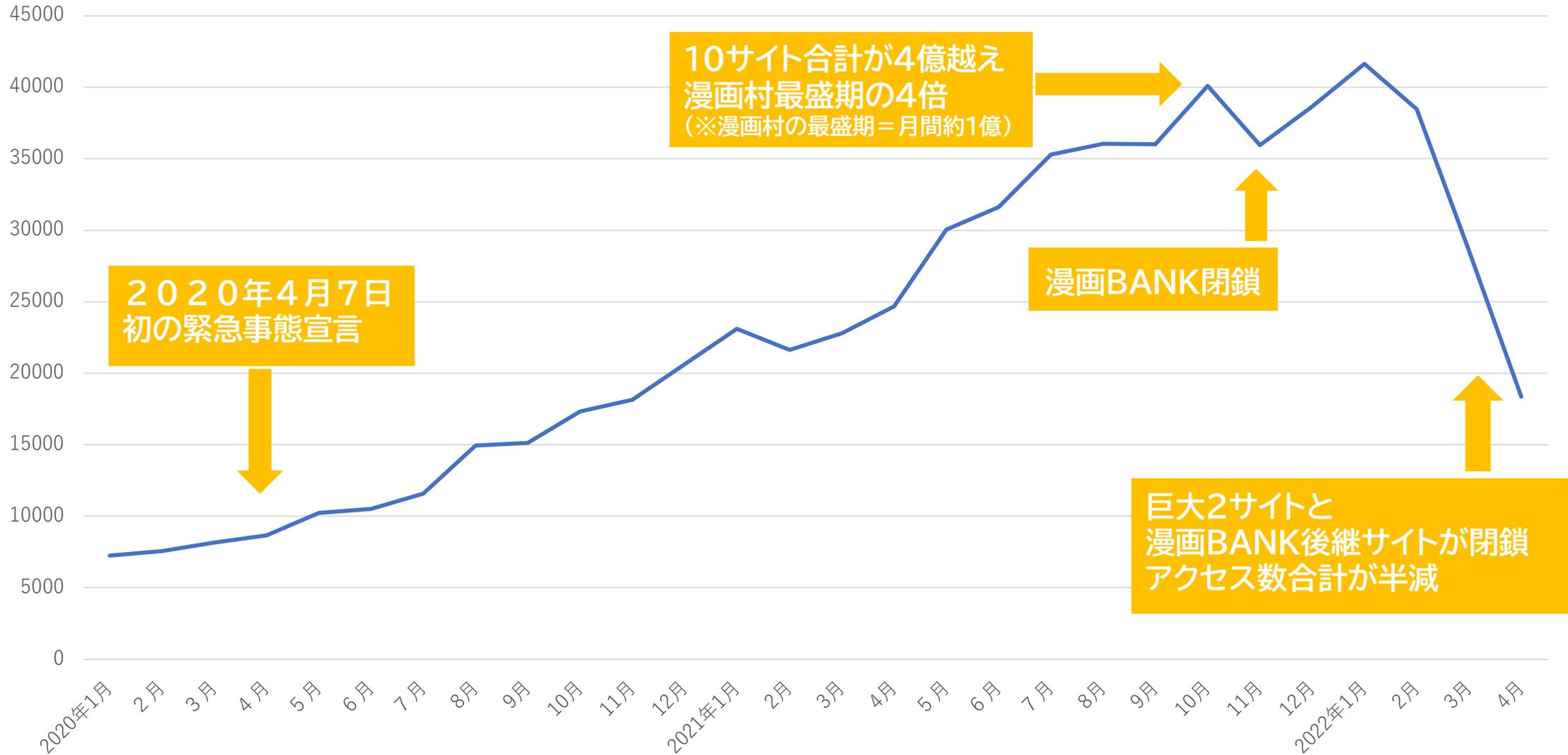
巨大海賊版サイト閉鎖後の最新状況

集英社編集総務部
一般社団法人ABJ広報部会長
伊東 敦

2020年1月～2022年4月 上位10サイトアクセス数合計の月別変化

(月ごとにサイト入れ換えあり) 一社ABJ調べ/similarwebによる

単位=万



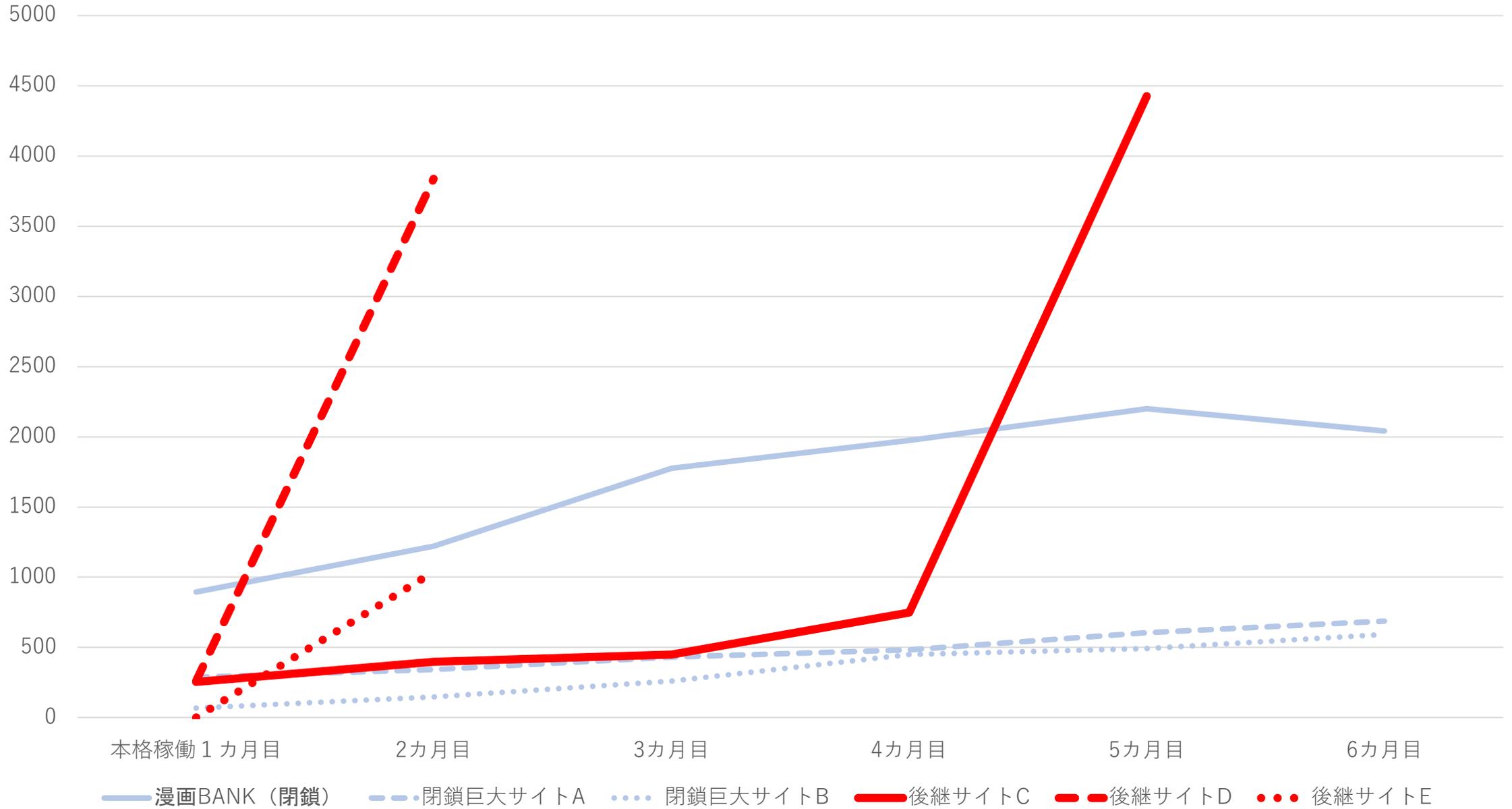
海賊版サイト、日本国内からのアクセス 2022年4月 上位10サイト月間アクセス数 (一社ABJ調べ/similarwebによる)

順位	サイト名	URL	2022年3月 (単位=万)	2022年4月 (単位=万)	3月→4月 の増減率	態様
1			2743	3906	142.4%	ダウンロード/リーチサイト
2			259	3837	1481.5%	オンライン
3			計測不能	2824		-オンライン/ベトナム系
4			1991	2033	102.1%	ダウンロード/トレント
5			1762	1715	97.3%	ダウンロード/リーチサイト
6			4426	1277	28.9%	オンライン/ベトナム系
7			計測不能	1039		-オンライン
8			661	685	103.6%	オンライン/ベトナム系
9			128	637	497.7%	オンライン
10			1088	396	36.4%	オンライン/ベトナム系
	上位10サイト 合計	構成員限り	13058	18349	140.5%	
	ベトナム系 合計		6175	5182	83.9%	

後継サイトが瞬時に巨大サイトに

月間アクセス数
単位=万

有力後継3サイトと過去の巨大3サイトの初期の伸びの比較



海賊版ユーザーの意識

- 巨大海賊版サイトが閉鎖になっても、すぐに後継が登場することを実感している
- ネット上で、すぐに探す、そして探せる(検索エンジン等で)

※「漫画村 代わり」と検索していた時代(2018年4月以降)に比較して、「後継サイトに群がる速度」は格段に上昇している

海賊版サイト運営者の手口

- CDNの存在が必須＝短期間のアクセス数急増を捌くため
- ドメイン移転前提でのさまざまな施策
 - ①ドメイン、画像蔵置サーバーを複数準備
 - ②検索に表示されやすいサイト名／ドメイン名(著名海賊版サイト名を再活用)
 - ③一部の作品を読もうとすると別ドメインに自動で遷移→ユーザーは新しいドメインを認知できる

[番外]ロシアのITサービスを利用する(日本からの法的アクションに関して安全地帯?)

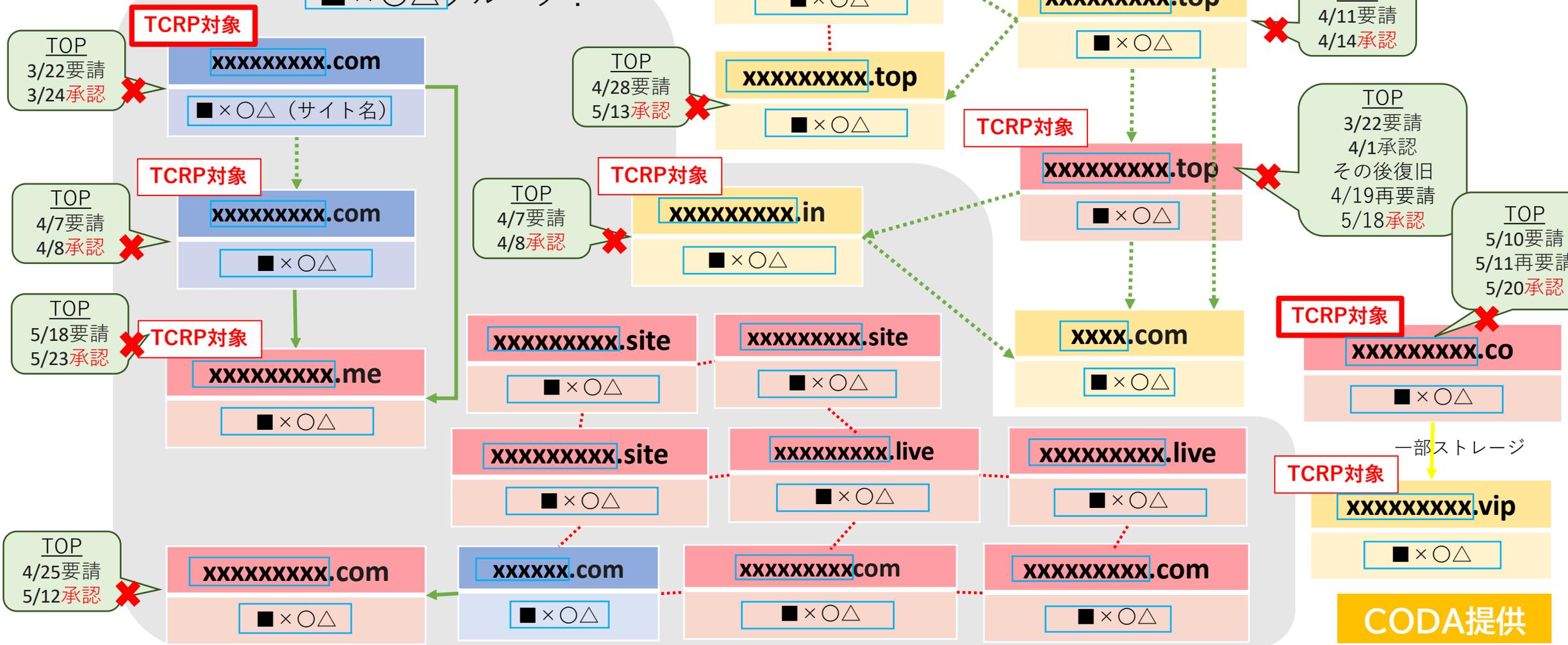
きちんと手続きを踏み
各事業者の協力を得て
対策を講じても

ドメインホッピングをされると
その対策は0から**やり直し**となる



構成員限り

■×○△グループ?



(参考/再掲)現在実施中の検索エンジン周りの対策

対策	実施者	結果等
個別作品URLの検索結果削除 (認識しているすべての 海賊版サイトについて)	各出版社	集英社(月間) Google 10万 Bing 10万
海賊版サイトTOPページの 迅速な検索結果削除	Google CODAと出版社	有力海賊版サイトが登場するたびに実施
有力海賊版サイトへのTCRPを 利用した集中的な検索結果削除	CODAと出版4社	有力海賊版サイトが登場するたびに実施 (常時2~5サイトが対象) 各サイト、万単位での送付 ただし降格シグナルは働かない または働く前にドメイン変更

※ヤフーさんとの取り組みに関しては、この会議での発表事項のため割愛